

## 町地の人口減少対策に学ぶ

# 視察報告

昨年10月28日～30日、12名の町議会議員で徳島県の中山間地へ視察に行ってきました。どの町においても、少子高齢化・過疎化が進む中、行動力あるリーダーのもと、地域資源を活かした移住定住対策で大きな成果を上げています。川根本町の今後の取り組みに大いに参考となり、充実の3日間でした。

### NPO法人グリーンバレー（大南理事長）の移住・交流推進事業

#### ～ 神山町における移住・交流「神山プロジェクト」の取り組み～

- サテライトオフィスの誘致（IT、映像、デザイン等働く場所を選ばない企業の誘致）  
神山町では早期の光ファイバー網整備により、新会社設立、本社移転で12社がサテライトオフィスを設置し、30名を新規雇用。3年後までに30名程度の新たな雇用が見込まれる。
- ワークイン・レジデンス（町の将来にとって必要になる働き手や起業者の誘致）  
移住希望者と空き家をマッチングさせる方法で「誰でもいいから来てください」ではなくて「ここでパン屋を開業しませんか」「この家をオフィスとして使いませんか」というように、仕事ごとに、来て欲しい人を逆指名する画期的な事業であり、7年間80名が移り住んだ。
- 神山塾（求職者支援訓練による後継人材の育成）  
ホームステイをしながら、地域づくりの活動を通じてイベント事業のノウハウやスキルを学ぶ職業訓練の場。6ヶ月間の求職者支援訓練で6期77名が終了。終了生の移住率約50%サテライトオフィス雇用10名。10組のカップルが誕生しています。



『平成20年～26年中に85世帯147人移住』

### 葉っぱビジネスで町おこし、インターンシップ事業で後継者を！

#### ～ 上勝町における「彩（いろいろ）事業」の取り組み～

- 「彩（いろいろ）」とは、もみじ、柿、南天、椿の葉っぱや梅、桜、桃の花などを料理のつま物として商品化したものです。当時農協職員の横石知二氏（現・株式会社いろいろ社長）が「彩」と名づけ昭和61年にスタートし、試行錯誤、努力奮闘の末、販売額2億6000万円「つま物」全国シェア70～80%を占め、年収1000万円以上稼ぐおばあちゃんもいます。
- 生産者、農協、市場をネットワークで結び、受発注情報、全国の市況情報を迅速に共有し需要に応じて葉っぱを供給している。
- 彩事業は、生産者・農協・株いろいろの3社が一体となって運営されています。また平成24年から出荷受注業務に、高齢者でも使いやすいシステム構築のタブレットを導入しました。
- インターンシップ事業は、農家の後継者を呼び込むための体験研修です。平成22年事業開始から5年間で500名を超える若者が全国各地から集まり、30名以上が町内に移住・就業しています。



『葉っぱビジネス、インターンシップ事業で高齢者が元気に！』

- 議員が企画運営する5回目の「視察報告会」を両日で30名の方々がお越しくださいました。議員が作成した資料やパワーポイントを使用してそれぞれの町の報告を行った後、視察に関する質疑応答、行政施策等について意見交換を行いました。
- 当日のアンケートとあわせてごく一部ですがご紹介させていただきします。
- 報告会で興味をもった・参考になった内容（丸数字は多い順）
  - ① IT企業による働きの創造（神山町）
  - ② 移住・交流施策（美波町）
  - ③ 葉っぱ産業の町おこし（上勝町）
  - ③ 伊座利地区の取り組み
  - ③ 創造的過疎による地域再生（神山町）
  - ④ インターンシップ事業（上勝町）

2月19日～20日  
町内2会場で開催  
視察報告会

# 熱い思いと行動力…とにかく始めろ！ 資源を活かした中山 町議会議員の 徳島県行政

## 美波町ウェルかめ（移住交流）コーディネーターの活動 ～ サテライトオフィスIN美波の取り組み～

- 平成23年8月より、光ファイバー網を活かした企業誘致に取り組み、平成24年5月に美波町出身のサイファー・テック(株)吉田社長が、サテライトオフィスを開設。現在サテライトオフィス進出企業12社、数社が検討中。地域ぐるみでサテライトオフィスの定着、誘致の拡大に取り組み、美波町の魅力を世界中に情報発信し、地域の活性化に繋げる取り組みをしています。
- ウェルかめ（移住交流）コーディネーター小林陽子さんの活動

新聞販売店経営の世話好きな小林さんは、30年前から個人的に移住の相談を受け、空き家情報の提供や家主との交渉・仲介、移住後の相談相手となり移住者支援の活動をしてきました。平成25年からコーディネーターを委嘱され、移住交流者への相談及び支援、空き家情報の収集及び提供、移住交流支援策の提案、サテライトオフィスの支援等に活躍しています。



小林陽子さん

『サテライトオフィス12社 移住者53名』

## 「おいでよ海のがっこうへ」 一日漁村体験イベントで留学生募集 ～ 小さな漁村の奇跡の復活、伊座利地区「自立」の取り組み～

- 美波町内に50世帯人口100人の伊座利地区があります。伊座利校が廃校の危機となり、学校存続を陳情するも行政の反応は鈍く「行政が頼れないなら自分たちが」と、公的な補助や支援を受けず、県内外の親子連れを対象に留学生募集に取り組み、70人を超える漁村留学生が転校してきました。移住者を選定し面接で決め、留学生は親も一緒に転入しなくてはなりません。伊座利地区では、行政からの指導等は一切なく、伊座利地区独自で自治活動をしています。
- 全住民参加で伊座り地区「自立」の取り組み

- ・「一日漁村体験留学」は県内外の親子連れが対象で定置網漁、漁船クルージング、磯遊び等を通して留学生を募集。
- ・「海女ちゃん養成講座」は18歳～40歳までの女性が対象。海女の新たな担い手、独身男性との出会いづくりで移住者の募集。
- ・「伊座利カフェ」は県内外から年間15000人が訪れる人気店。その他「配食サービス」「ポイ捨て罰則」等の独自の活動をしている。



『伊座利住民の6割が移住者！』

- どの町も頑張っているという印象を受けました。川根本町では何が欠けているのでしょうか
- 視察研修も大切だと思うが、そのエネルギーを実行に移すべき時ではないでしょうか。
- 発表で言われるとおり人づくりが急務であると感じました。勉強になりました。できない理由より、できる方法を考えていきたいと思っています。
- 地域・行政が一体となつてやらなければならぬと感じました。
- 上勝町のインターシップ事業、神山町の神山塾の事業は参考になりました。若者や町外者が、この町に来る取り組みが必要だと思いました。
- 町に対する危機感を、私たちが町の職員も念頭に業務を進めていきたいと思っています。

◎ご意見・ご感想など